

当院で CT 検査を施行された患者様へ

研究課題名：歯の萌出及び顎骨病変における導帯管の診断学的意義

研究組織：九州歯科大学 歯科放射線学分野

研究代表者：九州歯科大学 歯科放射線学分野 小田昌史

研究の意義・目的：

まだ萌出していない歯の萌出路には“導帯管”と呼ばれる構造が存在します。導帯管は歯と、その萌出部をつなぐトンネル状の骨欠損構造で、歯が正常に萌出するために重要な構造です。導帯管は異常がない歯にはほぼ全例に認められます。しかし、顎骨の病気がある場合はしばしば欠損や走行異常が認められることが報告されています。

本研究では顎骨に病気がある患者様の CT 画像を見直し、導帯管と顎骨の病気及び歯の異常との関連性について検討します。また、病気があるとなぜ歯が萌出しにくいのか、その原因を詳細に調査します。顎骨の病気と導帯管の関係に注目することで新たな鑑別診断の基準が明らかとなったり、将来矯正治療が必要になるかどうかを考慮する材料になったりする可能性が期待されます。

当該研究の方法：

2011 年以降に施行された CT 画像を見直し、未萌出の歯に導帯管があるか否か、病気とのつながり、特定の病気に認められる導帯管の異常がないかを詳細に再検討します。そしてそれらの結果を統計学的に検討します。

得られた結果は、学会や専門誌において発表します。その際、個人情報を完全に保護した形とし、個人が特定されることは決してありません。診療情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。この研究についてわからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

問い合わせ窓口：

研究責任者 小田昌史

九州歯科大学 歯科放射線学分野

〒803-8580 福岡県北九州市小倉北区真鶴 2-6-1 Tel 093-285-3094